

この度、「司法・犯罪分野における心理臨床の現状と課題（仮題）」について特集号を作成することになりました。さまざまな心理臨床の領域のうち、司法・犯罪領域における特徴を明らかにするとともに、実践上の工夫やコツを対外的に発信することをねらった特集です。

現在特集編集委員会側で執筆を依頼した論文は以下のとおりです。司法・犯罪領域における心理臨床の展開に役立つテーマを取り上げた論文を公募します。投稿を希望される方は特集編集委員会側で予定している以外の内容を取り上げてください。

原稿締切は 2024 年 2 月 10 日 です。特集編集委員の公募論文担当窓口藤野 (fujino@waseda.jp) に「犯心特集号公募投稿」のタイトルをつけ、原稿の word ファイルと日本犯罪心理学会投稿論文のための事前点検表をご提出ください。投稿後 1 週間以内に投稿を確認した旨返信しますので、返信がない場合は再送願います。

論文の長さは、表題、著者名、所属機関名、英文抄録、本文、表、図などすべてを含め、犯罪心理学研究 13 頁（約 21,000 字）までとします。犯罪心理学研究の執筆要領に準拠して、執筆してください（2023 年 9 月改正の執筆要領に合致していない原稿は受理できませんのでご注意ください。）。

初回審査で 2 名の審査者が共に掲載可能と判断したものが掲載対象となります。 特集号の刊行予定は 2024 年度末を予定しています。

会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

特集編集委員会一同

掲載予定論文

巻頭言「司法・犯罪領域の特殊性について」・・・半澤 利一（東北福祉大学）

<第一部> 司法・犯罪の機関別心理臨床の実際

- 1 警察における少年相談について・・・井口 由美子（警視庁少年育成課新宿少年センター）
- 2 警察における被害者支援について・・・浅野 晴哉（宮城学院女子大学）
- 3 家庭裁判所という機構・・・市村 彰英（埼玉県立大学名誉教授）
- 4 矯正領域における心理臨床は、何のために何をしているのか・・・朝比奈 牧子（法務省矯正研修所効果検証センター）
- 5 保護領域における心理臨床実践の実際と工夫・・・角田 亮（駿河台大学）

<第二部> 司法・犯罪心理臨床の理解を深める諸テーマ

- 6 司法・犯罪領域における犯罪理論の利用の仕方・・・島田 貴仁（科学警察研究所）
- 7 犯罪捜査側が期待する司法犯罪領域における心理職の役割・・・岩見 広一（北海道警察科学捜査研究所）
- 8 警察活動における対象者との関係性にかかわる一考察・・・横田 賀英子（科学警察研究所）
- 9 少年と家庭・・・鈴木 憲治（札幌国際大学）
- 10 再犯リスクアセスメントが司法臨床にもたらす意義と課題・・・森 丈弓（甲南女子大学）
- 11 謝ること、反省すること・・・門本 泉（大正大学）
- 12 他人を傷つけることと自分を傷つけることの間・・・高橋 哲（お茶の水女子大学）
- 13 地域援助を通してみる司法・犯罪領域の臨床家の在り方とさらなる貢献の余地・・・田中 かおり（東京少年鑑別所）
- 14 保護観察中の少年に対する地域心理臨床・・・岡田 和也（那覇保護観察所）
- 15 薬物事犯者の社会内処遇について・・・里見 有功（千葉保護観察所）